

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2023年8月7日
【四半期会計期間】	第27期第3四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	ジャパンベストレスキューシステム株式会社
【英訳名】	Japan Best Rescue System Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 榊原 暢宏
【本店の所在の場所】	名古屋市中区錦一丁目10番20号
【電話番号】	052（212）9900（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 若月 光博
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区錦一丁目10番20号
【電話番号】	052（212）9908
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 若月 光博
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第3四半期 連結累計期間	第27期 第3四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自 2021年10月1日 至 2022年6月30日	自 2022年10月1日 至 2023年6月30日	自 2021年10月1日 至 2022年9月30日
売上高 (千円)	13,377,674	13,844,736	17,810,069
経常利益 (千円)	899,711	1,249,703	1,173,247
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	373,828	596,473	437,932
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	289,301	908,914	400,679
純資産額 (千円)	10,914,335	10,733,042	10,802,905
総資産額 (千円)	29,080,303	28,641,625	27,884,824
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	11.07	18.13	13.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	11.02	17.32	12.75
自己資本比率 (%)	34.4	33.1	35.4

回次	第26期 第3四半期 連結会計期間	第27期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当 り四半期純損失() (円)	4.32	8.34

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（ジャパンベストレスキューシステム株式会社）、子会社3社及び関連会社7社により構成されており、会員事業、保証事業及び保険事業を主たる事業として行っております。

当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

（会員事業）

2022年10月に、株式会社アクトコール及び株式会社T S U N A G Uは、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

（駆けつけ事業）

第1四半期連結会計期間において、当社が営む駆けつけ事業を会社分割により新設会社の駆けつけ事業準備株式会社（以下、「承継会社」という。）に承継させ、承継会社の株式の51%を株式会社アクアライン（当社の持分法適用関連会社）に譲渡いたしました。これに伴い、承継会社を第1四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に含めております。また、2022年12月1日付で、承継会社の商号を「株式会社生活救急車」に変更いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウィズコロナの生活様式への転換が徐々に進み、日常を取り戻そうとしてきている一方、世界的な金融引き締めやウクライナ情勢の長期化等による原材料価格の上昇、供給面での制約等に起因する物価上昇等が続いており、依然として先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社グループは「困っている人を助ける」という経営理念に基づき、「ありがとう」と言ってもらえる、安心・安全・快適なサービスを提供することで、既存事業の強化と新たな成長基盤の確立に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高は13,844,736千円（前年同期比3.5%増）、営業利益は1,254,286千円（前年同期比6.8%増）、経常利益は1,249,703千円（前年同期比38.9%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は596,473千円（前年同期比59.6%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の会員事業における有効会員数は生活トラブル2,283千人、延長保証1,542千人、保険事業における被保険者数は732千人となっております。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

会員事業

主力の賃貸入居者向け会員サービス提供である「安心入居サポート」の会員数が順調に増加したことにより、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、7,396,804千円（前年同期比0.4%増）となり、営業利益は732,041千円（前年同期比0.5%増）となりました。

保証事業

住宅設備の延長保証サービス「あんしん修理サポート」の販路拡大が奏功し、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、1,241,684千円（前年同期比16.7%増）となり、営業利益は478,629千円（前年同期比17.0%増）となりました。

保険事業

主力の家財保険「新すまいRoom保険」の契約件数の拡大が好調に推移したことに加え、スマホ保険・スポーツクラブ傷害保険の売上が寄与したことにより、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、4,805,318千円（前年同期比17.7%増）となり、営業利益は389,065千円（前年同期比13.9%増）となりました。

駆けつけ事業

当該事業は会社分割の上、当社の関連会社である株式会社アクアラインへ2022年11月30日を効力発生日として譲渡したことにより、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は、144,226千円（前年同期比79.5%減）となり、営業損失は528千円（前年同期は営業損失74,910千円）となりました。

財政状態については、次のとおりであります。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末と比べ67,195千円減少し、16,260,397千円となりました。これは主に、売掛金が88,261千円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末と比べ826,268千円増加し、11,951,122千円となりました。これは主に、賃貸用固定資産が764,984千円増加したことによるものであります。

(繰延資産)

当第3四半期連結会計期間末における繰延資産の残高は、前連結会計年度末と比べ2,272千円減少し、430,104千円となりました。これは主に、社債発行費が1,394千円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末と比べ397,074千円増加し、7,837,953千円となりました。これは主に、未払法人税等が127,133千円減少したものの、短期借入金が増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末と比べ429,588千円増加し、10,070,628千円となりました。これは主に、社債が105,000千円減少したものの、長期前受収益が564,861千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べ69,862千円減少し、10,733,042千円となりました。これは主に、非支配株主持分が316,504千円、その他有価証券評価差額金が138,117千円増加したものの、自己株式が524,975千円増加したことによるものであります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

連結会社の状況

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

提出会社の状況

2022年10月1日付で連結子会社であった株式会社アクトコール及び株式会社TSUNAGUを吸収合併したことにより、当第3四半期累計期間において、会員事業セグメントの従業員数が98名、臨時雇用者数が110名増加しております。

なお、臨時雇用者数にはパートタイマー、アルバイト、派遣社員を含んでおります。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	96,000,000
計	96,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月7日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	34,127,177	34,127,177	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミア市場	権利内容に何ら 限定のない、当 社における標準 となる株式であ り、単元株式数 は100株であり ます。
計	34,127,177	34,127,177	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2023年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	-	34,127,177	-	780,363	-	823,485

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,329,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,782,900	327,829	-
単元未満株式(注)	普通株式 15,077	-	-
発行済株式総数	34,127,177	-	-
総株主の議決権	-	327,829	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式29株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ジャパンベストレスキューシステム株式会社	名古屋市中区錦一丁目10番20号	1,329,200	-	1,329,200	3.89
計	-	1,329,200	-	1,329,200	3.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、普賢監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,080,057	14,161,921
売掛金	1,124,269	1,036,008
商品	2,523	2,444
貯蔵品	11,860	9,228
その他	1,127,108	1,064,953
貸倒引当金	18,226	14,158
流動資産合計	16,327,593	16,260,397
固定資産		
有形固定資産	151,363	122,007
無形固定資産		
のれん	1,654,287	1,515,948
その他	801,792	644,327
無形固定資産合計	2,456,080	2,160,276
投資その他の資産		
投資有価証券	5,698,093	6,202,008
その他	2,877,075	3,500,757
貸倒引当金	57,758	33,927
投資その他の資産合計	8,517,410	9,668,838
固定資産合計	11,124,854	11,951,122
繰延資産	432,376	430,104
資産合計	27,884,824	28,641,625
負債の部		
流動負債		
買掛金	469,099	413,547
短期借入金	400,000	900,000
未払法人税等	215,999	88,865
賞与引当金	86,089	49,216
支払備金	74,318	107,025
責任準備金	1,069,544	1,262,771
前受収益	3,064,851	3,210,459
その他	2,060,976	1,806,067
流動負債合計	7,440,879	7,837,953
固定負債		
社債	555,000	450,000
長期借入金	1,270,363	1,246,856
資産除去債務	107,496	105,480
長期前受収益	7,511,335	8,076,197
その他	196,844	192,094
固定負債合計	9,641,039	10,070,628
負債合計	17,081,918	17,908,582

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	780,363	780,363
資本剰余金	6,946,096	6,944,480
利益剰余金	2,833,709	2,834,067
自己株式	452,383	977,359
株主資本合計	10,107,786	9,581,551
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	238,422	100,305
その他の包括利益累計額合計	238,422	100,305
新株予約権	2,920	4,670
非支配株主持分	930,622	1,247,126
純資産合計	10,802,905	10,733,042
負債純資産合計	27,884,824	28,641,625

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	13,377,674	13,844,736
売上原価	8,197,438	8,780,341
売上総利益	5,180,235	5,064,395
販売費及び一般管理費	4,005,592	3,810,108
営業利益	1,174,643	1,254,286
営業外収益		
受取利息	4,433	5,498
受取配当金	68,052	70,828
投資有価証券売却益	112,840	106,553
その他	52,113	36,531
営業外収益合計	237,439	219,411
営業外費用		
支払利息	18,982	12,227
保険業法第113条繰延資産償却費	65,092	85,117
投資有価証券売却損	2,449	20
持分法による投資損失	79,714	105,921
デリバティブ評価損	226,561	-
支払手数料	82,994	5,457
その他	36,577	15,250
営業外費用合計	512,371	223,994
経常利益	899,711	1,249,703
特別利益		
固定資産売却益	552	13
資産除去債務戻入益	3,127	-
特別利益合計	3,679	13
特別損失		
固定資産売却損	223	-
固定資産除却損	8,286	4,718
減損損失	139,650	-
投資有価証券評価損	-	20,813
子会社株式売却損	-	6,497
事業所退去に伴う損失	29,395	-
その他	4,449	-
特別損失合計	182,004	32,030
税金等調整前四半期純利益	721,386	1,217,686
法人税、住民税及び事業税	139,651	229,254
法人税等調整額	179,357	227,855
法人税等合計	319,008	457,110
四半期純利益	402,377	760,576
非支配株主に帰属する四半期純利益	28,549	164,103
親会社株主に帰属する四半期純利益	373,828	596,473

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	402,377	760,576
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	687,680	152,340
持分法適用会社に対する持分相当額	3,998	4,003
その他の包括利益合計	691,679	148,337
四半期包括利益	289,301	908,914
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	317,850	734,590
非支配株主に係る四半期包括利益	28,549	174,323

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であった株式会社アクトコール及び株式会社T S U N A G Uは、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、当社が営む駆けつけ事業を会社分割により新設会社の駆けつけ事業準備株式会社(以下、「承継会社」という。)に承継させ、承継会社の株式の51%を株式会社アクアライン(当社の持分法適用関連会社)に譲渡いたしました。これに伴い、承継会社を第1四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に含めております。また、2022年12月1日付で、承継会社の商号を「株式会社生活救急車」に変更いたしました。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

コールセンターに係る費用の一部につきまして、第1四半期連結会計期間より区分表示を変更することといたしました。この変更は費用の発生態様をより明確にすることにより、当社グループの売上原価、販売費及び一般管理費をより適正に表示するために行ったものであります。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「販売費及び一般管理費」に表示していた710,742千円を「売上原価」として、また「売上原価」に表示していた131,265千円を「販売費及び一般管理費」として組み替えております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行16行(前連結会計年度末18行)と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
当座貸越極度額の総額	5,400,000千円	5,300,000千円
借入実行残高	400,000	900,000
差引額	5,000,000	4,400,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	222,893千円	213,317千円
のれんの償却額	160,839	138,339

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年12月24日 定時株主総会	普通株式	305,434	9	2021年9月30日	2021年12月27日	利益剰余金
2022年5月6日 取締役会	普通株式	303,055	9	2022年3月31日	2022年6月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、利益剰余金の当期首残高が405,783千円減少し、3,004,267千円となっております。

また、当社は、2022年1月24日開催の取締役会決議に基づき、自己株式500,000株の取得を行いました。これを主な原因として、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が482,135千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が820,069千円となっております。

なお、当社の連結子会社であるジャパンワランティサポート株式会社は、2022年6月23日に東京証券取引所グロース市場に上場し、新株発行及び親会社が保有する子会社株式の一部売出しを行いました。

この結果、資本剰余金が499,997千円増加し、当第3四半期連結会計期間末における資本剰余金は7,313,802千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年12月22日 定時株主総会	普通株式	300,934	9	2022年9月30日	2022年12月23日	利益剰余金
2023年5月11日 取締役会	普通株式	295,181	9	2023年3月31日	2023年6月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年11月4日開催の取締役会決議に基づき、自己株式639,200株の取得を行いました。これを主な原因として、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が524,975千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が977,359千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	会 員	保 証	保 険	駆けつけ	計			
売上高								
一定の期間にわたり 移転される財及び サービス	6,125,626	892,138	-	-	7,017,765	547	-	7,018,312
一時点で移転される 財及びサービス	1,242,113	172,135	-	704,094	2,118,344	162,200	-	2,280,544
顧客との契約から生 じる収益	7,367,740	1,064,274	-	704,094	9,136,109	162,748	-	9,298,857
その他の収益(注)4	-	-	4,078,816	-	4,078,816	-	-	4,078,816
外部顧客への売上高	7,367,740	1,064,274	4,078,816	704,094	13,214,926	162,748	-	13,377,674
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,587	-	2,984	398	5,969	-	5,969	-
計	7,370,327	1,064,274	4,081,801	704,492	13,220,896	162,748	5,969	13,377,674
セグメント利益 又は損失()	728,210	409,022	341,621	74,910	1,403,943	1,336	227,962	1,174,643

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、感染拡大防止事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 227,962千円には、セグメント間取引消去4,683千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 232,646千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の収益は、保険法(平成20年法律第56号)における定義を満たす保険契約による収入が含まれておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に「会員事業」セグメントにおいて、137,567千円の減損損失を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	会 員	保 証	保 険	駆けつけ (注)5	計			
売上高								
一定の期間にわたり 移転される財及び サービス	6,198,882	1,036,588	-	-	7,235,471	47,301	-	7,282,772
一時点で移転される 財及びサービス	1,193,745	205,095	-	144,941	1,543,781	216,073	-	1,759,855
顧客との契約から生 じる収益	7,392,627	1,241,684	-	144,941	8,779,253	263,374	-	9,042,627
その他の収益(注)4	-	-	4,802,108	-	4,802,108	-	-	4,802,108
外部顧客への売上高	7,392,627	1,241,684	4,802,108	144,941	13,581,362	263,374	-	13,844,736
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,176	-	3,209	714	6,671	525	7,197	-
計	7,396,804	1,241,684	4,805,318	144,226	13,588,033	263,900	7,197	13,844,736
セグメント利益 又は損失()	732,041	478,629	389,065	528	1,599,207	41,061	303,859	1,254,286

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、部材販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 303,859千円には、セグメント間取引消去4,304千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 308,164千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の収益は、保険法(平成20年法律第56号)における定義を満たす保険契約による収入が含まれておりません。

5. 駆けつけ事業は、2022年11月30日に事業譲渡を行い、同事業からは同日をもって撤退しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	11円07銭	18円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	373,828	596,473
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	373,828	596,473
普通株式の期中平均株式数(株)	33,761,201	32,904,358
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	11円02銭	17円32銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	536	26,715
(うち連結子会社の潜在株式による調整額 (千円))	(536)	(26,715)
普通株式増加数(株)	115,481	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(配当)

2023年5月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(1) 配当金の総額.....295,181千円

(2) 1株当たりの金額.....9円

(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年6月12日

(注) 2023年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月7日

ジャパンベストレスキューシステム株式会社

取締役会 御中

普賢監査法人
東京都千代田区

指定社員 公認会計士 佐藤 功一
業務執行社員

指定社員 公認会計士 嶋田 両児
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジャパンベストレスキューシステム株式会社の2022年10月1日から2023年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ジャパンベストレスキューシステム株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。